

ステークホルダーエンゲージメント

適切な情報発信と対話によりステークホルダーとの関係強化を図ると同時に、ステークホルダーと連携し、新たな技術や価値を創出することで、持続的な成長と豊かな社会の実現を目指しています。

ステークホルダーとのコミュニケーション

サステナビリティ経営を推進する当社の理念と目的を共有するために、当社はステークホルダーとの多様な対話の機会を重要視しています。

対話を通じて、当社とステークホルダー、あるいは各ステークホルダー同士が相互に連携する関係を築き、ともに成長、発展していくことを目指しています。



ステークホルダー同士のつながりを
深化させるコミュニケーション

ステークホルダーとの対話機会

ステークホルダー	目 的	主なコミュニケーション
顧客	・ 事業を通じた社会課題解決に向けた協働 ・ 高品質な製品を提供し続けることによる、顧客満足度の向上 ・ サステナビリティ等の取り組みの適切な開示による、信頼関係の構築・強化	営業活動・技術サポート、顧客満足度調査、工場視察の受け入れ、CSR調査への回答、Webサイトにおける情報開示、サステナビリティ報告書
株主 (住友金属鉱山・BASF)	・ 株主への事業戦略、業績等の説明責任を果たし、グループ連携を強化	株主総会、監査の受け入れ、技術交流
取引先	・ 公正かつ公平な取引により健全な取引関係を維持 ・ 調達方針およびCSR調達ガイドラインを共有し、サプライチェーン全体でのCSR調達を推進	購買活動を通じたコミュニケーション、CSR調査の実施
協業先	・ 持続可能な社会に貢献する製品や新しい技術の開発を目指し、様々な企業と協業体制を強化	プロジェクトを通じたコミュニケーション、共同研究
従業員	・ 役員と従業員の直接対話の機会の創出 ・ 労使対話による相互信頼関係の強化 ・ 従業員のエンゲージメント強化 ・ 活力のある職場環境の醸成	エンプロイフォーラム(年2回実施)、労使協議会、役員ブログ、イントラネット
学校	・ サステナブルな社会を支える新たな技術・価値の創出	工場見学の受け入れ、共同研究
業界団体	・ 化学・触媒関連の業界団体や、社会課題解決に取り組む団体との意見交換、情報共有	業界団体への加入(日化協、触媒工業協会、水素バリューチェーン推進協議会等)
地域社会	・ 若者の育成、地域環境保全等の社会活動を通じて地域の発展に貢献 ・ 地域社会との共存・共栄	高専・高校の課外授業の実施、自治会や地主の方々との定期的な対話、地域清掃活動、地区商工会や環境関連協議会への参画、地区スポーツ大会への参加

地域貢献活動

■ 環境保全活動

当社は、各事業所の地域における環境保全プログラム(静岡県沼津市「クリーン沼津」、茨城県坂東市「クリーン坂東」)に参加し、定期的に清掃活動を行っています。

このほか、沼津市の狩野川水系の水質保全を促進し、住み良い生活環境を確保することを目的として活動している狩野川水系水質保全協議会に参画し、環境保護活動に取り組んでいます。



地域清掃活動

■ 教育支援

当社は、地域の未来を担う学生たちの教育支援活動として、小学校のニュースレター作成をサポートするほか、高校の課外授業に参画しています。

[小学校] ・ ニュースレター作成支援：
坂東市立神大実小学校、沼津市立原小学校

[高校・高専] ・ Futureしずおか^{*}：
静岡県立吉原工業高等学校、静岡県立沼津商業高等学校の課外授業の支援

^{*}Futureしずおか：高校生に地域企業で働く、地域で暮らす魅力を発信する、静岡新聞社のプロジェクト。

また、2024年度は、沼津工業高等専門学校物質工学科の学生を対象に工場見学を受け入れ、当社技術者との交流や指導を通じて、実際のものづくりの現場を体験できる機会を提供しました。



沼津工業高等専門学校の見学者

産学官連携活動

■ フードロス削減団体への参画

当社は、触媒によるフードロス削減を目指す「フードロス削減コンソーシアム」に加盟し、製品の提供や実用化に向けた意見交換等の活動を行っています。

昨年に引き続き、2025年3月に開催された同組織による「高校生フードロス削減アイデアコンテスト」に協賛し、プラチナ触媒を利用した切り花流通の鮮度保持に係る研究を発表した北海道岩見沢農業高等学校のチームへ企業賞としてエヌ・イー ケムキャット賞を贈呈しました。



企業賞を受賞した北海道岩見沢農業高等学校チーム

ステークホルダーとの対話

■ 創立60周年記念式典の開催

2024年4月に創立60周年を迎え、同年10月にお客様等を招いた記念式典を開催しました。第一部では、カーボンニュートラルに向けた触媒の重要性和題した特別講演を行い、第二部では、感謝の意を伝えるとともに社会課題解決に向けた当社技術の展示を行い、取引先や大学関係者等との交流を深めました。



代表取締役社長による謝辞